

国指定重要文化財 小野家住宅 保存修理工事(茅葺屋根葺替)



小野家住宅 (修理前外観)

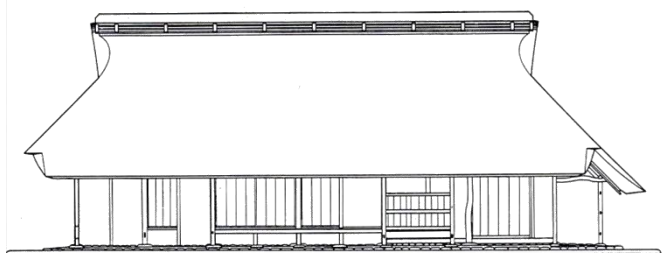
平成 14 年度の葺き替えから約 15 年が経過した小野家住宅の茅葺屋根は、棟の中央部分が落ち窪み、屋根の北側や東側には苔が生えていました。近年、気候変動の影響か、突然の豪雨や大型の台風に見舞われることが多くなり、そのために雨漏りも頻発し、建築部材に被害をもたらしていました。

このため、国、県、市の補助を受け、平成 29 年 6 月から保存修理事業に着手しました。工事内容は、屋根の全面葺き替えを中心に、経年により傷んだ壁や建具の修繕、畳の表替えなども行うことになりました。発注までの準備期間を経て、9 月から工事を開始し、平成 30 年 3 月末に完成となります。

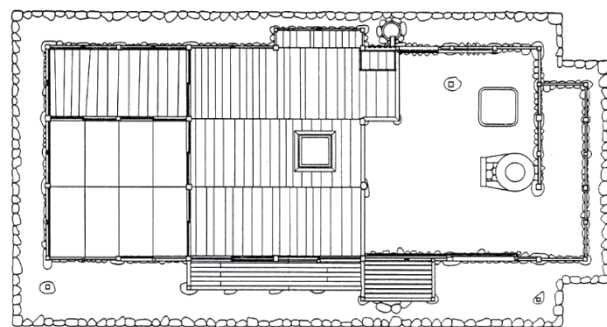
小野家住宅について

小野家住宅の建つ地域(所沢市林)は、江戸時代の 17 世紀後半から 18 世紀にかけて、新田開発により急速に開拓が進みましたが、かつては鬱蒼とした林が広がっていたため、林村と呼ばれていました。当地に建つ小野家住宅は、この頃の開拓農家の住まいとして、18 世紀初め頃に建てられたと推測され、昭和 50 年(1975)に国の重要文化財に指定されました。建築後、幾度となく改修が行われたようですが、

現在も武蔵野の開拓農家としての面影を色濃く残しています。間口約 14 メートル、奥行き約 6.5 メートルの長方形の平面をした入母屋造り、茅葺の建物で、軒がとても低く、柱や梁には自然のままの曲がった雑木を使っています。内部は入って正面に土間があり、土間の左側には囲炉裏がある板敷の広間、さらにその奥に畳敷きの 8 畳間と板敷の 4 畳間を配した、当時の典型的な民家の間取りとなっています。



小野家住宅・正面図



小野家住宅・平面図

国指定重要文化財「小野家住宅」保存修理工事 《茅葺屋根の葺替工事概要》



協力：公益財団法人 文化財建造物保存技術協会



①足場設置開始

まず建物周囲に作業用の足場を架けます。



②茅葺屋根解体開始

棟から順番に傷んだ古い茅をすべて解体します。



③解体途中

解体しながら、下地の竹や藁縄の状態を確認します。



④虫害の確認 1

虫害により、下地の垂木竹の一部が粉状になり、脆くなっています。



⑤虫害の確認 2

小舞竹に穴が開いています。主にタケトラカミキリという虫による被害です。



⑥解体完了・素屋根設置

茅の解体撤去後、素屋根を設置し、天候に関わらず作業ができるようにしています。



⑦下地の竹等を交換中

下地の竹や藁縄が劣化している箇所を除きます。



⑧新規に下地となる竹

新しく使用する下地の竹は、防虫処理を施しています。



⑨下地の竹等の交換完了

下地の竹を交換し終わりました。

※垂木(たるき)…建物の屋根において棟から軒へ、縦に渡した斜材。

※小舞(こまい)…垂木の上に渡した細長い材。



茅…日本の古い家屋、とりわけ農家などの屋根といえば、「かやぶき」「わらぶき」「くさぶき」と呼ばれる屋根があります。広い意味での茅葺とは、草で葺かれた屋根全般を指しますが、狭い意味での「茅」は「ススキ」「チガヤ」「ヨシ」を指すことがよくあります。秋から冬にかけ枯れたものを刈り取り、冬のあいだ野積みにして十分乾燥させます。今回の小野家の工事では、群馬県水上町で刈り取ったススキを使用しています。



2017.12

⑩軒付の葺き始め 1

軒付は屋根の厚みや形を決める重要な部分で、屋根の先端部分として一番丈夫な茅を選びます。また稲藁を敷き、茅のズレも防止しています。



2017.12

⑪軒付の葺き始め 2

藁縄で束ねた茅束を軒先に敷き並べ、藁縄と竹で固定し、軒付の一番先端に水切り茅という特に丈夫な茅を並べ、ひらぶき平葺へと移っていきます。



2017.12

⑫平葺始め

丸太の足場を取り付けつつ、茅を下から上に積み上げていきます。50 cmの厚みごとに、竹と屋根の下地材を藁縄で結び、締め付けます。



2018. 1

⑬棟まで葺き終わり

小野家の茅材の総量は、約1200束(約13.5t)分です。葺き終わる屋根の頂上は、雨漏りを防ぐ棟仕舞をします。



2018. 3

⑭棟仕舞の作業

小野家の棟仕舞は「くれぐし」と呼ばれ、この地方に見られる独特な棟となっています。



2018. 3

⑮くれぐしの下地準備

「くれぐし」とは、茅葺屋根の頂上(葺き終わり)に土を盛り、植物を植え、納めた棟のことです。



2018. 3

⑯杉皮を敷いた上に盛り土

盛り土どのお(土嚢約70袋分)の後、芝と花を植え、根を張らせて土を押さえ、雨漏り防止と同時に屋根飾りとします。



2018. 3

⑰芝にイチハツを植える

イチハツはアヤメ科の多年草。花期は4月中旬から5月中旬で、花の色は一般に青紫です。100株ほど植えました。



2018. 3

⑱仕上の刈り込み

最後にハサミを使って、葺く時とは逆に、足場を外しながら上から下へ刈り揃え、屋根全体の形を整えます。



茅葺きの作業に使う道具

- ①②がんぎ ③たたき板 ④さし板
⑤大バサミ・小バサミ ⑥針(木製) ⑦針(鉄製)
⑧針付カマ ⑨抜きバサミ ⑩丸針 ⑪押し切り

所沢市伝統芸能発表会と市指定無形民俗文化財

第13回所沢市伝統芸能発表会(於：市民文化センターミュージック マーキーホール)



平成30年2月18日(日)午後、第13回所沢市伝統芸能発表会が開催されました。発表会は、市内に伝わる伝統芸能の紹介と後継者の育成、伝統文化の振興を目的として、2年に1度行われるものです。市指定無形民俗文化財「岩崎籠獅子舞」「重松流祭ばやし」の両保存団体以外にも、市内に受け継がれている伝統芸能の団体出演もあります。今回は「林神社囃子連」が出演し、特徴的な足踊りが披露されました。

重松流祭ばやしを習う所沢小学校の児童や、岩崎籠獅子舞の棒使い・籠っ子を担う泉小学校の児童などをはじめ、各団体とも幼児を含む子ども達の出演があり、インタビューなどでも盛んに会場を沸かせていました。また、前回発表会から開会前と幕間の休憩時間に、重松流お囃子体験を実施しています。体験は、子どもだけでなく大人の方々にも、伝統芸能を身近に感じてもらう機会となっています。

市指定無形民俗文化財 ^{ささら}岩崎籠獅子舞・^{じゅうまりゅう}重松流祭ばやし (共に昭和44年(1969)指定)



岩崎籠獅子舞は、市内山口の岩崎地区に伝承されており、毎年10月の第2土曜日に瑞岩寺で行われます。戦時中に一時中断していましたが、平成26年には起源伝承400年を迎え、子ども獅子舞を実施するなど、後継者育成に新たな取り組みが行われています。



重松流祭ばやしは、所沢で生まれた古谷^{ふるや}重松^{じゅうまつ}が編み出した囃子の流派です。「じゅうま」は重松の愛称で、所沢を中心として東京都多摩地方で伝承されています。毎年10月の「ところざわまつり」や、各地域のお祭りなどで演奏され、地域に脈々と受け継がれています。